

計装技術交流部会&計測制御エンジニア会 主催

「資源探査における計測と制御」開催報告

JL 0002/07/4602-0154 ©2007 SICE

計装技術交流部会では、計測と制御に関わる方々の知見を広め、かつ交流の活発化を促進する目的で、産業界での計測と制御に関する事例紹介を「……をよく知る、よく見る」という形式で開催しています。

今回は、将来の地球を考える上で欠くことのできない地球資源にスポットを当て、「資源探査における計測と制御」をテーマとし、シュルンベルジェ株式会社淵野辺本社テクノロジーセンター（SKK）の山手 勉様、藤原竹雄様、小林有一様に講師をお願いしました。同社の会議室をお借りして、10月31日に17名が参加して開催されました。

以下に講演の概要および筆者所感をご報告します。

1. シュルンベルジェの概要

シュルンベルジェは、石油開発における技術サービス、プロジェクトマネジメント、およびそれに関わるITサービスを提供する会社で、本社はヒューストンとパリに位置します。140か国籍にわたる6.6万人の従業員が80か国で操業するグローバル企業です。

SKKはSchlumberger Ltd.のテクノロジーセンターとして1982年1月に設立され、光学分析装置、坑井用ケーブル通信、センサー、水晶圧力センサー、ジオフォンなどの技術を活用した石油探査用ツールを開発・製造しています。

2. 当日のスケジュールと概要

1. 資源探査の基礎知識

—会社概要、淵野辺本社概要、石油探査の流れ、各種探査手法の紹介、石油の動向

2. 施設見学

—ワイヤーライン、ソニックの製造、テスト現場の見学および分光分析器の見学

3. 傾斜・水平掘削の新技术

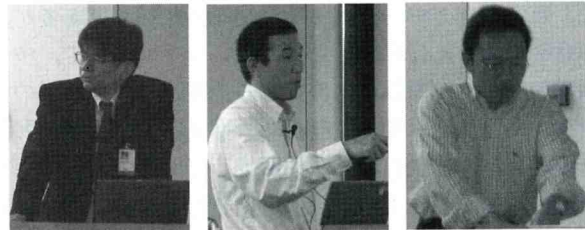
—Directional Drillingの原理、手法、適用例

4. 人工地震による振動を地下でとらえる

—VSI (Versatile Seismic Imager)の原理、手法、適用例

3. 講演および施設見学所感

「資源探査の基礎知識」を山手様にシュルンベルジェ株式会社の歴史および石油のアップストリームのお話を絡めつつ、解説を行っていただきました。つづく施設見学では実際にワイヤーライン、ソニックの製造工程やテスト手法、最新の分光分析装置を詳細な解説を交えて見学をさせてい



山手 勉様

藤原竹雄様

小林有一様

ただきました。その後「傾斜・水平掘削の新技术」を藤原様、「人工地震による振動を地下でとらえる」を小林様にそれぞれ原理、手法、適用例などを計測と制御技術を中心に詳細に解説を行っていただきました。各講演の後および懇親会において時間が足りないほどの活発な質疑応答がなされました。

日常生活および業務において必要不可欠な石油ではありますが普段はなかなか接することのない、石油業界のアップストリームを垣間見ることができ、大変有意義なセミナーでありました。



最後になりましたが、本企画のアレンジおよびご熱心な説明をいただきました斉藤剛士様（人事部）、山手様（光センサー技術部）、藤原様（ソニック・オートメーション部門）、小林様（地震探査部門）には、お忙しいにもかかわらず、私たちのためにお時間をさいっていただきまして、ありがとうございました。この場を借りて厚くお礼申しあげます。
(計装技術交流部会：川村洋平)

(2006年11月13日投稿受付)